

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795700014		
法人名	社会福祉法人 憲寿会		
事業所名	グループホームときわ苑		
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町字当銘370番地1		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4795700014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレト西205		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、母体施設の特別養護老人ホーム、各種サービス事業所を隣接しており、年間行事計画等(桜祭り、ハーレー見学、ゲートボール大会や納涼祭り等)利用者やご家族、職員、地域住民との交流の一環として毎年開催しております。グループホームは敷地が広く、近くに集落と緑に囲まれた静かな環境である。季節に即した諸行事を始め、利用者の趣味や嗜好を考えた活動として、職員との共同による作品づくりにも盛んに取り組んでいます。完成した作品は室内に掲示することで、利用者の自信に繋がっていると思います。私達は施設の理念を目標に、家庭的で温かいホームづくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①事業所は高台にあり、交通量が少なく周囲が自然に囲まれたのどかな立地環境である。屋内は利用者がゆったりと過ごせるソファや和室があり、さらに利用者と共に取り組まれた作品等が家庭的な雰囲気を醸し出している。②運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催されている。会議において事業所のサービスに関する内容だけでなく、地域の一人暮らし高齢者の情報把握の方法等活発に意見が交わされている。③隣接する母体施設(特別養護老人ホーム等)と定期的に会議を持ち、利用者の緊急時における看護師の応援体制・災害時の母体施設からの応援体制・法人内研修への参加・外出時の職員の応援体制等緊密な連携が図られている。④これまで継続してきた利用者自身の暮らしが途切れないよう、利用者全員を対象とした「ふるさと訪問」を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成23年2月2日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切に、暮らしやすい環境の下、悠々と温々と今日ん、あなたらしさを支援致します。施設の理念を目標としながら利用者との関わりを大事にしています。	利用者が「自分らしく」これからも地域で暮らし続けていけるよう理念に位置付けられ、玄関出入り口と共有空間の壁に掲示されている。月1回開催の会議において、理念に基づいた言葉使いをしているのか等の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、桜祭り、ハーレー見学や納涼祭り、ゲートボール大会等、地域行事に参加し、交流を深めています。	利用者は馴染みの地域行事のハーレー、青年エイサー、町桜祭り等に職員と一緒に出かけ楽しんでいる。また以前に利用していたミニデイサービスにも参加し、馴染みの人との交流を深める支援をしている。隣接するデイサービスに参加している利用者の知人や友人が利用者を訪ねて来ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のミニデイサービス「字とーてい語らな」へ出向き、健康体操や踊り、介護についての助言や相談を受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催しており今回第12回目となります。委員の皆様との情報交換により、利用者のより良い支援に繋がっていると感じています。	2か月に1回定期的に会議が開催されている。ほぼ毎回委員の方々の参加が見られ、利用者の生活状況・介護相談員・行事研修会等を毎回報告している。事業所のサービスに関する内容だけでなく、地域の一人暮らし高齢者の情報把握の方法等、活発に意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の大きな行事等には町職員を招待したり、又、運営推進委員として加わってもらい協力連携に努めています。	運営推進会議に町担当職員と地域包括支援センター職員が毎回参加し、事業所と情報交換を行っている。最近ではスプリンクラーの設置について協議している。また自分で食事を作ることができない一人暮らしの高齢者に対して、地域包括支援センターと連携してデイサービスにつなげた事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勝手口にはセンサーを設置、玄関には鈴を取り付けたり工夫しています。居室のドアは常に開放しています。徘徊等のある方については見守りを行い、敷地外に行く場合についても同一事業所の連携に努めています。	日中は自由に出入りできるよう玄関は鍵をかけていない。避難口となっている勝手口にはセンサーが設置されており、利用者が外へ出る時には音声で知らせるようになっている。これまで介護主任を始め職員も身体拘束に関する研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は意識を持って日々の介護に心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいませんが、職員は研修等を受講し、知識や研鑽に努めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族様に不安や誤解を招かないように、解りやすく説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、殆ど利用がなく来訪時や職員が自宅を訪問する際に、意見や要望等を聞くようにしています。	介護相談員が定期的に事業所を訪問して利用者との面談から得られた要望等を把握している。また面会時だけでなく運営推進会やサービス担当者会議において家族からの意見・要望等を聞く機会を設けている。（施設利用料や介護相談員への期待等）。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	福祉課介護、職員会議等を通して、お互いの情報共有の機会としています。	毎月法人全体で職員会議が行われ、その時に法人に対する要望が挙げられている（道路と事業所敷地内の出入り口が滑りやすくなっているため滑らないよう工事してほしい等）。また、毎月職員会議も行われ、職員から研修参加の希望を受け、勤務調整を行い参加を可能にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善点などを提案できる機会を設け、各自が向上心を持って働けるようにしています。しかしながら、有休暇が思うように取れないのも現状です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修や各種の勉強会等の参加を希望する事ができ、更には多くの研修を受けられる機会を確保できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入し、勉強会や施設見学会などにより、多くの情報交換や交流活動に参加をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や不安に思っているように感じたら、ゆっくり聴いてあげられるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	互いの信頼関係を築くのはとても大事なことだと思います。感じている事、不安に思っている事を気兼ねなく伝えられるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている事、又、気づかない事等があれば助言を行いながら対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物に出かけたり、日課の活動を一緒に過す事ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にしながら、時には利用者様やご家族との架け橋となり一緒に支えていけるように対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で触れてみたり、又、ふるさと訪問行事を実施。懐かしい場所を尋ねたりする事で、これまで継続していた馴染みの関係が途切れないように支援しています。	家族が高齢になって面会に来られることが難しくなっている。これまで継続してきた利用者自身の暮らしが途切れないよう、利用者全員を対象とした「ふるさと訪問」を奇数月に実施している。運営推進会議の時にこれらの様子を定期的に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会やおやつ会、余暇の活動等においてひとり一人の個性を大事にしながらも、孤立感がないよう同士の関わる機会をつくれるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移行やサービスの終了になっても経過については、事業所と連携を図っています。継続して関わる事も重要だと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性を大切に、その人らしい暮らしの希望や思いを把握できるように努めています。	職員は利用者が希望することをミーティング等で確認している。例えば、「トイレに行きたい。外に出たい。」というような本人の意向を示すそぶりがみられた時は、本人の思いに沿うよう支援している。また食事の際に箸の持ち方を忘れてしまった利用者には、「本人が混乱して不安になっているだろう。」と本人の気持ちを踏まえてさりげなく横で見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人知人が訪ねて来た時には、会話の中から生活歴等を情報収集し、今後の生活支援に活用できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の健康管理や心身機能の状態、生活の様子を日誌、個人記録で把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状況変化に対し、アセスメントが不十分の為、介護計画へ反映されていない。日々のケアに反映された介護計画の作成に努めていきたいと思えます。	定期的にサービス担当者会議が開催され、家族や職員からの意見が反映されている。アセスメント表での利用者の日常生活の情報が把握されている。利用者自身の状況変化に対して現場で対応されていることが確認できた（不穏状態が続く家族と対応を検討する等）。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りでは情報の不備や記録の漏れがあり職員のケアの統一が図れていない事があります。気づいた事など直ちにメモる習慣をつけ、介護計画の評価見直しに活かせるようにします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独の為、多機能を活かさない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援に向かって準備中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれかかりつけ医を持っており受診時には、本人の健康状態や生活状況についても情報を提供している。	かかりつけ医の受診は、家族同行となっている。家族が同行できない場合や利用者の状態によっては、職員が付き添う等、事業所に対応している。家族が同行する際は、かかりつけ医に直接電話で情報を提供することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一事業所(特養・デイサービス)看護師の協力あり、利用者の体調変化が生じた時の処置及び必要な医療への紹介や助言等を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には必ずメッセージを添えた花を持ってお見舞いに伺います。本人様やご家族が不安にならないよう医療スタッフとの連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化になった場合は、ご家族様と話し合いの場を持ち、意向があれば母体施設への紹介などの支援を行っています。	現在、重度化した利用者はいない。入居時に事業所が対応できる支援について説明を行っている。職員に対する重度化への研修等は行っていない。重度化した場合、家族の希望を聞くなどし、事業所全体の方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急務であることを踏まえ、全職員が対応できるようにと思っているのですが、現状では定期的な訓練実施には至っていない為、早急に取り組む計画をしていきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2自主訓練、消防立ち会いを実施。火災や地震、水害等のビデオ勉強会を行いました。地域との協力体制については、現在、自治会と確認中です。	消防署立ち会いで年2回消防避難訓練を行っている。夜間訓練実績はない。火災、地震、水害等のビデオ勉強会を利用者も一緒に行っている。火災以外の台風、地震、非常災害のマニュアル作成や、災害時に自治会、老人会等の地域を巻き込んだ支援体制について運営推進会議にて検討中である。今後スプリンクラーの取り付けも予定されている。	今後は夜間を想定した避難訓練の実施、火災以外の台風、地震、非常災害のマニュアルの作成、災害時における地域住民の支援体制作り等、具体的な組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、言葉かけには意識を持ちながら日々の対応に心がけるようにしています。	利用者は目上の方であると常に念頭におきながら、日々のケアに取り組んでいる。利用者指摘されることもあるが、言葉遣いや対応が馴れ合いになっていないか職員全員で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事提供については毎週木曜日は選択メニューを取り入れ、利用者は食べたい物を自分で選ぶ事ができます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビや沖縄芝居を日課としている方、散歩やドライブ、買い物付き添い、歌っている時の表情が印象的な方、入浴が苦手な方など利用者ひとり一人個性に合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師の経験を持つ職員がおり、本人様やご家族の意向を確認しボランティアで行っています。お化粧を日課としている方、毎日自分の好きな服を選んできこなす等、その人らしさを大事にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設で調理、利用者と職員がテーブルを囲んで一緒に食事をする。会話も盛んである。食事の配膳から後片付けも一緒にを行っています。	食事は母体施設で調理され、1か月の献立の内容は豊富である。職員と一緒に配膳の手伝い、(テーブル拭き、箸並べ等)後片付け(お膳下げ等)を利用者一人ひとりの力を活かしながら行っている。職員と利用者が一緒にテーブルで、会話をしながら楽しく食事をし、家庭的な雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量の記録、水分量の確認を行い、ひとり一人の状態把握に努めて支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底しています。声かけ指示の必要な方、拒む方、これまでの習慣が身につけている方など（夕食後はイソジンうがい薬を使ってケアを行い、義歯は洗浄液に付けて置きます。）		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により管理を行い、トイレ誘導の実施、これまでリハビリパンツを使用していた方が、綿パンツの着用になった方もいます。	利用者の生活パターンを把握し、排せつチェック表を確認しながらトイレへの声かけをすることで、紙パンツ使用から布パンツに変えた利用者もいる。利用者が椅子から立ち上がろうとした場合、さりげなく見守りながらトイレまでついて行き、排せつの自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体の管理栄養士の食事献立の工夫、水分量の確保、日中の活動機会により、便秘の予防ができるようにケアを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や外出のタイミングを見ながら入浴が楽しめるようになっていきます。介助が必要な方については一日おき行なっています。	本人の入浴したい日、時間に対応しており、入浴チェック表によって清潔支援状況を把握している。入りたくない利用者には、声かけを工夫したり病院に行く前等、タイミングを工夫しながら入浴支援を行っている。浴室はすべらない床材を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋があり室温の完備、窓には遮光カーテンを取り付け、電動式ベッドの設置。利用者がいつでも安心してゆったり過ごせるようになっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には薬の説明書を添えてもらい、職員は服薬情報を確認しています。利用者の体調の変化にも留意を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道や絵を描いたり作品づくりに熱心な利用者がいます。意向を伺いながら職員と一緒に活動を楽しまれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、近隣までの散歩を希望される利用者があり支援を行っていますが、地域の方との協力には至っていません。	毎日外出を希望する利用者があり、母体施設やデイサービスへ知人に会いに行ったり、近隣を散歩して気分転換に努めている。近くのスーパーに買い物に行き、知人に出会うこともある。2か月に1回ドライブに出かけている。家族の協力を得ながらふるさと訪問、外出支援等に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者より金銭に関わる要望があった時には、ご家族へ連絡し来訪をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新年には本人様より御家族宛へ年賀状を出していますが、手紙のやり取りは殆どありません。家族へ電話したいとの要望時は、常時対応できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、リビングは利用者と職員がゆったり過ごせるように広さを確保。壁には共同の作品や絵画が掲示されています。	共用空間は明るく、壁には職員と利用者が一緒に作った作品が飾られ、対面式の台所の音が心地よく聞こえ、畳間も設置されている。ソファで、利用者は思い思いに過ごしている。共用空間から眺める庭には可愛い犬や小鳥のさえずりも聞こえ、ゆったりとした雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングでは利用者同士が談笑したりテレビ観賞される。新聞や本、雑誌等を見られるようにテーブルや椅子を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自宅から持ってきて使用される方は一部の利用者だけ。ベッドやタンス、洗面台の設置があるので家族は満足しているようです。現在部屋の装飾に工夫をしています。	各居室の入り口には、花の写真が飾られ、間違わない工夫がされている。居室に洗面台、カーテン、ベッド、タンスが設置されている。利用者の馴染みの物はない。利用者によっては、本人が書いた習字や誕生会の写真等を飾っている。	利用者が使い慣れたものや好みの物を身近に置き、居心地の良い居室作りに取り組むことが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレや浴室にはわかりやすい工夫や表示で目印を付けて対応している。壁には日めくりカレンダー、時計を設置し確認できるようにしています。		